

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第2区分  
 【発行日】平成26年8月21日(2014.8.21)

【公表番号】特表2013-536166(P2013-536166A)  
 【公表日】平成25年9月19日(2013.9.19)  
 【年通号数】公開・登録公報2013-051  
 【出願番号】特願2013-519587(P2013-519587)  
 【国際特許分類】

C 0 7 F 9/12 (2006.01)

C 0 9 K 21/12 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 F 9/12

C 0 9 K 21/12

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月7日(2014.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

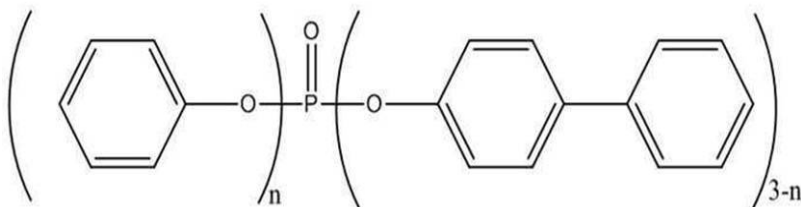
下記化学式1で表されるピフェニル 4 イルジフェニルホスフェート組成物の製造方法であって、

塩化ホスホリル( $\text{POCl}_3$ )、4 フェニルフェノール(4 phenylphenol)及び触媒を混合して反応させる第1脱塩酸反応段階と、

フェノールをさらに追加して反応させる第2脱塩酸反応段階と、を含み、

下記化学式1において $0.60 < C_{n=2} < 0.95$ ( $C_{n=2}$ は化学式1において $n=2$ である組成物)を満たすことを特徴とする、ピフェニル 4 イルジフェニルホスフェート組成物の製造方法。

【化学式1】



(前記化学式1中、 $n$ は0~3の整数)

【請求項2】

塩化ホスホリルと、第1脱塩酸反応段階の4 フェニルフェノール及び第2脱塩酸反応段階のフェノールの和とのモル比が $1:2.7 \sim 1:3.0$ になるように塩化ホスホリルを含有することを特徴とする、請求項1に記載のピフェニル 4 イルジフェニルホスフェート組成物の製造方法。

【請求項3】

第1脱塩酸反応段階の4 フェニルフェノールと第2脱塩酸反応段階のフェノールとのモ

ル比が 1 : 1 . 8 ~ 1 : 3 . 0 であることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載のビフェニル 4 イルジフェニルホスフェート組成物の製造方法。

【請求項 4】

触媒が、無水塩化アルミニウム、無水フッ化アルミニウム、無水塩化マグネシウム、無水フッ化マグネシウム、無水塩化マンガン、無水フッ化マンガン、無水塩化第一鉄、無水塩化第二鉄、無水フッ化第一鉄、無水フッ化第二鉄及びこれらの混合物から選択される何れか一つを含むことを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれか に記載のビフェニル 4 イルジフェニルホスフェート組成物の製造方法。

【請求項 5】

第 1 脱塩酸反応段階が、 $-20 \sim 0$  で行われることを特徴とする、請求項 1 ~ 4 のいずれか に記載のビフェニル 4 イルジフェニルホスフェート組成物の製造方法。

【請求項 6】

第 2 脱塩酸反応段階が、 $20 \sim 50$  で行われることを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれか に記載のビフェニル 4 イルジフェニルホスフェート組成物の製造方法。